A. 学科試験

県

氏名

どちらかに○×をご記入下さい。

○ ×

1	基本動作の試合において、選手を並べる間隔は、1.5 m位とする。	☐	☐
2	号令員は、白側の1m横から、前方（審判側）に1.5 m以上3 m以内に立つ。	☐	☐
3	号令員の号令と違った動作をしても、号令員はやり直しは出来ない。	☐	☐
4	基本動作の引分けは、頭上において赤白旗を交差させる。	☐	☐
5	審判は、原則として選手と同じ道場や関係者が出た場合は、一時交代をし、疑問を生じないように心がける。	☐	☐
6	試合の、打突競技・基本動作は、段級別に分けて実施する。	☐	☐
7	女子の初段と男子の初段とは、実力が異なるので別にする。	☐	☐
8	打突競技の棒は、原則両手把持だが、片手は柄の部分把持していなければ反則となる。	☐	☐
9	槍は原則として、両手把持で実施するが、くり剣の場合は瞬間的には許容範囲である。	☐	☐
10	槍の足払いは、禁止である。	☐	☐
11	打突競技は、二審制であるため異議や疑問のある場合は、二審目は中央にて検査役、審判全員で「再判定」を行なう。	☐	☐
12	「再判定」では、検査役も一名として多数決で裁決をする。	☐	☐
13	国際審判員は、万能審判であるので、どの試合も主審判が出来る。	☐	☐
14	長剣両手、短刀や槍（長・短）棒、杖等の部外競技は、1級審判員でなければ、公式戦は無効である。	☐	☐
15	長剣フリーと長剣両手の審判は、同じ資格である。	☐	☐
16	部内競技とは、短刀、小太刀、二刀である。	☐	☐
17	現在 クラブ対抗の合戦は、320 cmのルールで実施している。	☐	☐
18	短刀は、蹴りや投げがある。	☐	☐
19	打突競技は、足打ちが若干早くとも、面を打たれたら相打ち又は負けとなる。	☐	☐
20	足を打つ場合は、面を打たれないように工夫をする事である。	☐	☐

合計